

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

- ・ 専任教員及び寄付部門教員に加え、兼務教員によるセンタープロジェクト設置を可能とする、外部資金規模及び研究目標水準など明瞭で定量的なプロジェクト採択基準を設定。この基準に従い、部局横断型の研究シーズを基に外部資金を積極的に獲得し、センター内に産学連携大型プロジェクトをタイムリーに企画・設立している。
- ・ センターから全学的支援機能である産学連携推進本部への機能移管を進め、開発企画部の研究プロジェクト企画立案機能を抜本的に強化した。このプロジェクト企画立案機能の強化により、18年4月時点でプロジェクト設置数13が18年8月時点で年度内設置数19に増強し、同時にプロジェクトの大型化も進行中。仕掛かり案件を考慮すると、中期目標値であるプロジェクト設置数20に到達する見込み。これらにより、センターの外部資金獲得額17年度実績28億円が18年度以降は更に増大し、研究活動の活発化と研究成果の創出加速が期待される。
- ・ 研究プロジェクト数の増加が示す産業界が望む活発な研究活動の実施により、研究スペースの不足が生じている。センター本館及びハッチェリースクエアの配置換えなど既存スペースの有効利用に加え、中小機構の大学連携型起業化育成施設(2,500㎡、7億4千万円)を獲得し、センター駐車場に18年12月に着工する運びとなった。これらにより現有研究プロジェクトの初期活動スペースを確保するものの、更に活発な研究活動を展開するために、東北大学サイエンスパーク構想の先駆けともなる第2研究棟の概算要求を行っている。
- ・ 産業界との戦略的な取組を行うことを目的に、各業界のリーダーシップ企業トップを主体とするセンター運営協議会を設置。大型産学連携プロジェクトを他大学に先駆けて設置・運営していくための産業界からの的確な意見を取り込むことが可能となり、東北大学における産学連携の全国展開を積極的に進める足掛かりを構築している。
- ・ 特定企業向けに分野を絞り込んだ研究会やセミナーの実施、有力企業CTO等を招いてのキャンパスツアー(産学連携プロジェクト候補となる教員と研究室の訪問)などの新たな研究資金の獲得と研究成果の活用を目的とした広報・情報収集活動を新規に実施。プロジェクト企画活動に資する産業動向・研究開発動向・公募情報の蓄積と更新を密に行い、常に新たな産学連携プロジェクト設立の可能性を検討している。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け(ISCitationなど)など。

- ・ 産学連携活動における利益相反・秘密保持等の基本的な重要事項への理解を、全ての研究プロジェクトに携わる研究員に備えるべく、センター長・副センター長が日常的に教育指導を実施している。
- ・ 国際的な連携においては、海外からの研究費獲得も重要であると認識しているものの、大学における海外への技術輸出管理(安全保障貿易管理)のリスクマネジメントについて慎重に対応しつつ、戦略的な国際連携体制の整備を進めているところである。